

ChatGPTに登録

JJ1SXA/池

近ごろ話題の、チャットGPT、これは「オリジナルのテキストを生成することができる人工知能ツール」だ、世に出てきたのは昨年11月、開発したのは人工知能の研究開発に特化した「OpenAI」というアメリカの企業だ。

開発者向けにとして2020年に公開された「GPT-3」は、インターネットから収集した45TB（およそ数十兆文字）もの膨大なテキストデータで学習した96層からなる1750億個のパラメータのモデルで、学習段階のクラウド計算のコストが5億円と言われている。

このように、チャットGPTは大量のテキストデータを覚えさせることで、とてもリアルで「まるで人が書いたような文章」を生成することができる自然言語処理ツールになっているようです、ということで、大きな魅力がありますが、その反面、既存産業や教育機関（大学・高校など）への影響など、多くの懸念があることも事実のようです、2月14日、読売新聞夕刊に「正確さ懸念…教育現場警戒」などという記事が出ていました。

会員登録するだけで、無料で利用でき、言語を設定する項目は無いが、日本語で会話を始めるとChatGPTも日本語で答えてくれるということで使ってみることにした。

最初に登録だが、ChatGPTのサイト(<https://chat.openai.com/auth/login>)にアクセス、最初結構繋がりにくかったが、時間を置いてやったら一発で繋がった。

新規登録をするためには右の「Sign up」を押す（左はログイン）。

次の画面は、ログインに使用するID/アカウントの登録だ、「メールアドレス」の他、「Googleアカウント」、「Microsoftアカウント」でも良いようだ。

メールアドレスで設定することにして「Email address」の欄にメールアドレスを入力し、「続ける」を押す。

画面の表示が切り替わり、パスワードの入力欄が表示されるので、ChatGPTへのログインに使用したいパスワードを「Password」欄に入力して、「続ける」を押す。（パスワードは最低8文字が必要）

画面が変わったら登録メールアドレスにChatGPTからメールが届いていないかを確認「Verify email address」ボタンを押すと、名前を登録するページが開きます。

「First name」「Last name」に名前を入力して「続ける」を押す。

電話番号認証画面が表示されるので、日本の国旗が表示されて、「+81」という日本の国番号が表示されていることを確認、電話番号を入力して「続ける」を押す。

画面が「Enter code」に切り替わるのと同時に、登録電話番号宛に、認証コードが記載された、SMSが届いていた、「Enter code」画面の「000 000」と表示されている入力欄に、送られてきた6桁の数字（認証コード）を入力、これで、ChatGPTへの新規登録が完了、利用開始ができるようになった、難しいことは何も無かった。

チャットの利用方法は、画面下のチャット入力欄に、質問や要望を入力、右の「紙飛行機型の送信ボタン」を押せば、回答が返ってくる。

基本は無料で利用できるが、月額20ドル支払えば「ChatGPT Plus」が使える、ピーク時でもアクセスしやすくなったり、応答時間が短縮されたり、新機能などが使えたりすることです。
(2023年2月記)